

# 琵琶湖周辺の治水対策の必要性

## ◆ 琵琶湖総合開発事業で合意された洗堰操作

### 洗堰操作の基本的考え方

琵琶湖と淀川における流出時差を利用した治水である。

- ⇒ 淀川ピーク時は琵琶湖からの流出を抑制、洗堰全閉(琵琶湖が最大治水能力を発揮)
- ⇒ 淀川ピーク後は琵琶湖からの流出を最大、洗堰全開(淀川の最大治水能力利用)

### 洗堰操作合意の前提

瀬田川～宇治川流下能力を1,500m<sup>3</sup>/sまで向上させる

瀬田川洗堰操作について(照会): 滋水政第52号 平成4年3月10日付  
瀬田川洗堰操作について : 建近河第50号 平成4年3月11日付

淀川水系瀬田川洗堰の操作規則について(意見聴取): 建設省河治発第22号 平成4年3月21日付  
淀川水系瀬田川洗堰の操作規則について(回答): 滋水政第84号 平成4年3月30日付

### 合意に基づく具体的な整備メニュー

- ①天ヶ瀬ダム再開発事業
- ②鹿跳地区改修事業
- ③瀬田川下流部(洗堰～鹿跳地区)改修事業

# 中間とりまとめ(治水:委員会)

1. 今後は、いかなる降雨においても、壊滅的被害の回避を優先的に考える。すなわち、人命が損なわれることなく、また、家屋などの資産の損失は可能な限り少なくすることを目標とする。
2. そのためには、破堤回避対策の実施が必要である。また、洪水という自然現象を対象とするため、破堤回避の対策も万全でないことを十分認識し、万が一に備えて危機管理を行う必要がある。
3. 破堤回避対策を実施した場合、降雨状況によっては、ある程度の越水を想定する必要がある。こういった点を考慮した、したたかな街づくりを進める必要がある。
4. また、ある程度の堤防越水があると予測される場合、これに対応した社会制度上の対応策の検討が必要と考えられる。
5. 上下流の問題(琵琶湖・洪水調整ダムの水位管理、狭窄部の開削等)はそれぞれの地域の地理的・歴史的経緯や環境の保全などを踏まえ、総合的に見て最善となる対応を常に考える必要がある。

# 中間とりまとめ(治水:琵琶湖部会)

## 琵琶湖の水位管理について

1. 天然湖である琵琶湖とダムとして機能させる琵琶湖とのあいだには、大きい矛盾がある。琵琶湖の水位管理においては、その矛盾を踏まえ、自然の季節的变化が基本になるようにし、他の目的のための変更は必要最低限に止めるよう、留意すべきである。
2. そのため、人および社会が古来よりいかに琵琶湖とかかわってきたのか、また、それが環境に対していかなる影響を及ぼしてきたのかを深く検討し、新たな水位操作を行なわなければならない。

# 中間とりまとめ(治水:淀川部会)

## 狭窄部について

1. 洪水調節機能の面からも自然景観保全の面からも、狭窄部の開削はさけなければならない。
2. 狭窄部の治水対策としては遊水池による方法が最も望ましく、トンネルなどで流過能力を高める方法は下流の河道の流過能力を勘案して決定すべきである。